

この授業では、中学校第1学年 男子26名を対象に、保健分野の心身の発達と心の健康の「欲求やストレスへの対処」の単元について行います。

対象生徒の実態については、日頃から発言が活発で、発問に対する返答もよいのですが、騒がしくなることも多少あるクラスです。

本時の目標は3つで、1)否定的なイメージを持たれることが多い「欲求」について、肯定的で成長に不可欠なものであると捉えさせると共に、誰もが欲求を持っていることに気付かせること。2)欲求不満に対する適切な対処方法を自ら考え出させること。3)欲求、欲求不満、欲求が満たされることばかりではないことを理解させること。です。

抽象的な内容が多く含まれる単元なため、イメージしやすいように身近な具体例を多く取り入れることを大切にして授業を進めていきます。

授業の流れは、導入で欲求についての説明を行い、欲求のよい面に意識させます。そして、展開 にはいるところで、導入とは反対に、欲求には実現しないことによって生じる悪影響もあること説明し、欲求不満の説明とメカニズムについて説明します。語句の定義などにとらわれることなく、生徒が実感できる身近な話を引き出すことをポイントに行います。そして、展開 では、学習した内容をもとに班ごとにケーススタディを行い、欲求不満への適切な対処方法を考え発表させます。欲求不満のケースが逸脱したものにならないよう、あらかじめ3つのケースを用意しておき選択させるようにします。最後に、本時のまとめと次時の予告を行います。

評価の観点、関心・意欲・態度を発問に対する態度から、思考・判断と知識・理解はケーススタディからABCの3段階で評価します。